

## 2024 年台湾部会認証式 参加報告

国際交流員会 秋山逸馬

2024 年 11 月 17 日（日）、ICD 台湾部会（TICD）承認式がハワードプラザホテル台北（福華大飯店）にて開催され、富士谷会長以下日本部会（JICD）のメンバー6 名が参加しましたので報告をさせていただきます。

11 月 16 日（土）台風 23 号が台南の西方、台湾海峡にあった為に南方から参加する私は到着午前六時の予定が 2 時間弱遅れ桃園空港へは 7 時 45 分過ぎに到着した。桃園空港から台北市内まで鉄道で移動の予定であった為、通勤時間と重ならない時間帯にしたいと考えていたが、土曜日であったせいか思った以上の混雑はなかった。参加する JICD の先生からも台風を危惧する話を聞いていたので、朝食と宿泊所への移動中も日本へ「早朝の天気は小雨、台風は小康状態」と報告していた。しかし、荷物を宿泊所に預けた後に所用を済ませべく知人と合流している間、午前中には台風は熱帯低気圧に変わり午後以降に日本から来られる先生方にはあまり影響しなかったと後に知ることになった。ウェルカムパーティーは Courtyard by Marriott, Taipei Downtown にて行われた。Courtyard by Marriott は従来、「南港」という台湾新幹線の終着駅（台北駅から新幹線で一駅隣）にあり Covid19 以降に南東アジアではホテルの買収や再編が多く、開催については地元のタクシー運転手の不備等もあり多少の混乱があった。今回の TICD 承認式には、国際会長の Dr. Argirios Pissiotis も参加されておりウェルカムパーティーから出席されていた。国際会長の参加もあり、ウェルカムパーティーでは自己紹介と台風による天候不順が話題となり私自身、熱帯低気圧になった事と午後以降の台湾到着は比較的スムーズになった事を知り会は和やかに終了し、二次会としてハワードプラザに移動し小さな会を開き、この日は終了した。（写真 1）

二次会では Dr. Kenney より数か月来の TICD の混乱と中国本土からの影響などを聞き、ICD の様な歯科学会にも政治的な影響が出ているとのこと。すなわち、台湾歯科医師も中国本土でビジネス的な関係を有している先生方も少なからず居て、TICD を突然退会するなど学会運営に混乱を生じさせる事があるとのことで、姉妹関係を提携している JICD としては今後とも理解・協力できる処をサポートする必要があると感じた。また、今回の様に ICD 本部からの参加がある場合など、JICD も余裕のある体制を持つておくことが重要と思われた。

翌日 17 日（日）はエキスカーションとして市内観光から始まり、国際会長も参加し台湾の歴史を垣間見るものとなった。観光した先は「龍山寺」と「中正紀念堂」であった。「龍山寺」は台北で最古の、そして最も有名な寺院といわれ常に観光客や地元の人がお参りに来る寺院である。台湾は基本的には「神仏混交」と云われており、観音菩薩が正殿の主祀といわれているが道教の媽祖や関帝、月下老人なども祀られる。街自体も古くからの建物も多く、またかつて色町が在ったことから「すっぽん」や「蛇の血」などが飲めたり、一応健全なマッサージ店があったりという「浅草の浅草寺」の様な感じである。「中正紀念堂」は、八角形瓦屋根が目立つ記念堂で名前の「中正」は故蒋介石の字であり、内部に座像が

設置されている。この建築物はある意味で台湾の政治状況を写す鏡とも云われる。2000年から始まった民進党政権下、二・二八事件をはじめ数々の国民党政府の台湾新弾圧政策の張本人は蒋介石であるという認識から2007年に「台湾民主紀念館」と改名されたが、2008年に再び政権を奪取した国民党政府により再度「中正紀念堂」に戻された経緯がある。講堂が経つ広大な広場も「中正公園」から「台湾民主公園」に一時改名され、現在は「藝文広場」と呼ばれている。正門碑楼上部の扁額も「大中至正」から「自由広場」に架け替えられている。ただ、1980年に創設されて以来続く衛兵の交代式は陸軍・海軍・空軍により3カ月毎に交互に行われており当日は空軍であった。

その後は劍潭公園に隣接したグランドホテル（圓山大飯店）にてランチとなった。このホテルは日本統治時代に設立された台湾神宮の跡地に建設されており、台北のランドマークになっている事もあり夕方からの承認式前の優雅で贅沢な一時となった。

2024年台湾部会の承認式は、昨年同様にハワードプラザホテル台北（福華大飯店）にて行われた。今年の新フェローは7名で、国際会長が見守る中で執り行われた。（写真2）

承認式は恙なく執り行われ、続いて台湾部会総会が行われた。その後の懇親会では国

際会長および韓国部会(KICD)や JICD からの参加フェローへも参加証が贈与された。更に、TICD と長きに渡り懇意にされていた歌橋フェローを始め JICD の数名にも楯と記念品の授与などがあり、台湾部会(TICD)と日本部会(JICD)の関係性の深さや彼らの友情に重きを置く心持に驚かされた。歓迎会は例年通り、ピアノとサックスの生演奏のカラオケ大会となり成功裏に幕を閉じた。（写真3）



写真1



写真3



写真2